

学校だより 「'11まかべ」

第15号
2011(平成23)年7月15日
糸満市立真壁小学校

授業参観日並びに読書講話会 7/8(金)

用意周到な授業準備と授業の工夫



8日(金)は、定例の授業参観日でした。野菜の収穫等で忙しい中を、多くの保護者に足を運んでいただきました。児童にとっても教師にとっても、自分のこと或いは自分の学級のことを気にかけてもらえるのは嬉しいものです。授業を見られるのは、ちょっぴり緊張もしますが、励みにもなり新たな意欲をも高めるものでもあります。

また、3校時には糸満市中央図書館司書をお招きして「子どもに読み聞かせるよさ及び読ませたい本」のテーマで、読書講話も行いました。素晴らしい内容でしたので、その概要を報告します。

■授業参観から

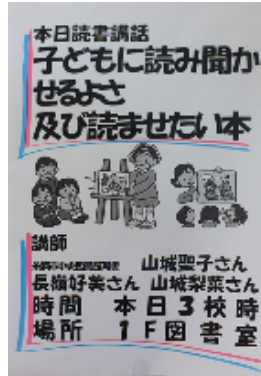


1年生は、国語で「おおきなかぶ」の学習でした。「おじいさんが畑に種をまくと大きなかぶができた。収穫しようとするが大きすぎてひとりでは抜けない。おばあさんにも手伝ってもらおうがそれでも抜けない。孫娘、犬、猫にも手伝ってもらおうがそれでも抜けない。ネズミにも手伝ってもらいようやくかぶは抜ける。」児童が、それぞれの役になって、実際に演じながら物語のよさを味わう授業でした。

3・4年生は、糸満市学校給食センターの栄養士をお招きして、食育を行いました。「砂糖を摂りすぎると、虫歯になりやすかったり、イライラしやすくなったりする。砂糖の一日の必要量は20gである。ところがコーラなどの清涼飲料水には、一缶あたり40gの砂糖が使われている。」すでに必要量の2倍であることに、児童が声を上げてびっくりしていました。実物を使い、具体的な数字をあげているところに説得力がありました。



6年生は国語で、仕上げた意見文の発表でした。新学習指導要領は、生きる力を育むために“言語活動”の充実をあげています。私たちは、言語で考えて、言語で意思の疎通を図ります。意見文の学習は、自分の考えを深め、考えが相手に伝わるように表現する力を高める学習です。「言葉つかい」「あいさつはなぜ?」「なぜ名札をつけるか」など6年生らしいテーマで、データをあげての根拠を持った意見文にレベルの高さを感じました。



■読書講話…3校時(右写真)

講師：糸満市中央公民館司書

…長嶺好美、山城聖子、大城梨菜

- くろしお号は常時3,200冊の図書を積んでいる。真壁小には、隔週で木曜日のお昼休みに来ている。真壁小は、小学校でもっとも利用冊数が多い。
- 読書って何?何がいい?それは、触れてみないと分からない。日常は、読書なしでも済ませられる。
- 子どもたちは、本を渡しても読まない。本を読む機会を持たせることが肝心。本に触れさせる、読むことが当たり前になるくらいに。

- 読む力、書く力、集中力、想像力…、目に見えない力ばかり。実際に経験しないと分からない。
- 私の友人は、幼い頃からお母さんに読み聞かせをして貰っていた。家には多くの本が並んでいる。読まなくても、常にかばんの中に本を入れている。
- とにかく語彙が豊富。友人からの手紙やメッセージを読むと、こんな表現もあるんだな、と思わせられることがしばしば。文章力が凄い。
- 絵を見て先を想像する。幼い頃から絵本に触れていることが感性を高める。
- 普段の生活では体験できないことが、イメージの世界で創造する。
- 登場人物の喜怒哀楽、心の変化、相手の気持ちを考える。
- 本との出会いは幼いほどいい。親が忙しくてチャンスが無かった子も多い。一番いい時期を逃がしてきている。
- 「読み聞かせをするには、どんな本を?」とよく聞かれる。子どもの頃に好きだった本、今好きな本等がいい。自分が楽しむことが一番いい。
- あしななければいけない、こうしなければいけない、と型はめは苦しい。
- 本の持ち方に決まったやり方はない。表紙を見せて、著者を紹介して、絵や文章をじゃましないように持つ。声は大きく…、声が小さいと自然におしゃべりが増える。
- 読み手は緊張するが、子どもは本を読んでもらえるのが好き。すでに読んだ本でも聞いてくれる。



【第1学年親子集会…7/2(土)】

糸満市体育指導員をお招きしての親子ゲームを行いました。親子に与えられたのは、一枚の新聞紙でした。じゃんけんに負けると、親子で立っている新聞紙を半分にします。じゃんけんに勝ち続けることは不可能なので、どの親子も子どもを肩車したり、抱き上げたりして親が狭くなっていく新聞紙に踏ん張っていました。まさに親子ならではの楽しいゲームでした。



ちょっとしたアイデアで、新聞紙がゲームを楽しくさせ、最後まで和やかな親子集会でした。